

## 授業評価・授業研究報告

保健体育講座・藤原誠

### 1. 授業の概要

本授業はスポーツ健康科学課程・スポーツ指導者養成コース（コース必修）、および同課程・スポーツキャリア開発コース（コース選択）の学生を対象としている。登録学生数はスポーツ指導者養成コース 17名、スポーツキャリア開発コース 6名となっている（登録学生のうち 1名は登録のみ、1名は途中から受講放棄）。最後まで受講した実質の受講者数は 21名である。

本授業は、社会において実施されている多様なスポーツについて、その領域、およびその現状について認識を深めるとともに、そのマネジメントについて理解することを目的としている。社会スポーツの現状と国のスポーツ政策との関連や、地域における公共スポーツ施設、商業スポーツ施設など、社会スポーツのマネジメントについて理解することを目指している。授業の到達目標としては(1)社会スポーツの現状を国のスポーツ政策と関連づけながら説明できる、(2)公共スポーツ施設の果たすべき役割や、そのマネジメントについて説明できる、(3)商業スポーツ施設、特にフィットネスクラブの発展経緯、現状、そのマネジメントについて説明できることをあげている。

ディプロマ・ポリシーについては、「充実した生涯学習社会を築くため、スポーツや健康に関する確かな専門的知識を修得している」（知識・理解）、「現代社会で生じている健康やスポーツに関するさまざまな課題について論じ、適切な対応を考えることができる」（思考・判断）、の二項目に対応した授業内容や授業展開を意図している。

授業の方法・形態は講義形式を基本としているが、テーマを設定した小グループによる討論・発表という形式も適宜取り入れている。また、講義においては、受講者に対して積極的に質問を行い、各自の考えを他の人に伝える場を設けるよう心がけている。

授業内容としては、スポーツマネジメント

の概念について、スポーツをめぐる社会状況、欧州のスポーツ政策、日本のスポーツ政策、地域スポーツの振興方策、欧州の総合型地域スポーツクラブ、日本の総合型地域スポーツクラブ、愛媛県・松山市の社会スポーツ状況、公共スポーツ施設の役割、公共スポーツ施設のマネジメント、スポーツ産業の領域と動向、フィットネス業界の変遷と近年の動向、フィットネスクラブのマネジメント等について取り上げている。欧州の総合型地域スポーツクラブや日本の総合型地域スポーツクラブについては、ビデオを利用して、その状況を把握できるようにしている。近年、日本のスポーツ政策は、平成 12年に策定された「スポーツ振興基本計画」、平成 22年に策定された「スポーツ立国戦略ースポーツコミュニティ・ニッポン」、平成 23年に施行された「スポーツ基本法」等を受けて、大きく転換しようとしている。その中に示されているスポーツ振興の柱となる総合型地域スポーツクラブについては、今後ますますその重要性が増すと考えられるところであり、その具体的な展開状況や問題点等についても検討している。

成績評価については、中間試験および期末試験の成績に基づき行っている。また、試験を行った結果、授業内容の理解が不十分な者についてはレポートの提出を求めている。しかし、最終授業日と成績評価の締め切り日が極めて近く設定されており、十分な対応ができないのが現状である。前回の報告でも指摘したところであるが、成績評価の期間をもう少し余裕をもって設定すべきである。

### 2. アンケート調査の結果

最終授業日にアンケート調査を実施している。授業に対する各自の取り組み状況、授業内容や理解の程度（授業内容、授業レベル、理解の程度等）、一番関心をもった授業内容、授業方法、授業環境、授業全般について、自由記述により回答を得ている。これに先立ち、学部 DP との関連についてのアンケート調査

も実施している。当日の欠席者1名を除く20名から回答を得た。結果の概要は以下の通りである。

### 1) 授業に対する各自の取り組み

「全力で一つ一つの授業に取り組めた」、  
「授業中は板書以外にも重要だと思うことはメモを取るなど、積極的に取り組めた」、  
「授業を集中して聞くことができた」、  
「私語せず、興味深く聞いた」など、授業には真剣に取り組んだとしている反面、「遅刻をしてしまうことが何度かあった」、「遅刻ぎみで、欠席も数回してしまった」等、欠席や遅刻を重ねる者もいた。授業場面では真剣に取り組めるが、授業出席に至るまでの基本的姿勢に欠ける傾向がみられた。

### 2) 授業内容、授業レベル、理解の程度

授業内容、理解の程度については、「授業内容を補足するプリントがあり、スポーツクラブ、マネジメントについて理解を深めることができた」、「特に関心がある分野だったため、日本のスポーツ施設や欧米の政策について知識を深めることができた」等、各自の関心分野との関係もあるが、授業で取り上げた領域について、理解を深めていると思われる。授業レベルについては、「説明も具体的でわかりやすかったので、授業のレベルはちょうど良かった」、「しっかり話を聞いていると理解できるレベルであったので、とてもわかりやすかった」等の記述があり、概ね受講学生に見合った内容、レベルであったと思われる。しかし、「板書が分かりづらくて、多少理解に苦しむこともあった」という指摘もあり、理解を促進するような適切な板書を心がけようと思う。

### 3) 一番関心をもった授業内容

授業内容が多岐にわたっていること、また、受講学生の関心も多様であることから、一番関心をもった授業内容も多岐にわたっている。「日本、外国の総合型地域スポーツクラブについて」、「外国のスポーツへの取り組み(トリム運動など)」、「公共スポーツ施設について」、「スポーツ産業について」、「フィットネスクラブについて」等があげられている。国内外の状況を考慮しつつ、可能な範囲で多様なスポーツ状況について取り上げていこうと思う。

### 4) 授業方法

本授業は、受講生にとって新しい学習内容を扱っており、講義形式を主体として、多様な知識を身につけることができるよう努めている。毎授業時には資料を配布し、理解を深めることができるよう配慮している。また、適宜、受講生に質問をして各自の見解を述べる機会を設けている。

アンケートの回答には、「プリントや図表は適切だったと思う」に加えて、「プリントに書き込むような感じにした方が手を動かすので集中すると思う」という指摘もあった。小グループでの討論・発表も数回行ったが、「グループワークなどをして話したり考えたりしたのが印象に残っている」、「グループワークを入れてくれたのはよかった」という記述があり、今後もグループでの話し合い等を組み込んでいくことが必要なことを再認識した。

### 5) 授業環境

### 6) 授業全般について

上記5)6)については、特に考慮すべき事項は記述されていなかった。

### 7) 学部 DP との関連

本授業で意図しているスポーツ健康科学課程の DP との対応は以下の通りである。「対応していた」、あるいは、「どちらかといえば対応していた」と回答した者が多くなっている。

スポーツ健康科学課程	度数	計	DP1					DP2						
			①	②	③	④	(無)	①	②	③	④	(無)		
D P 1 充実した生涯学習社会を築くため、スポーツや健康に関する様々な専門的知識を修得している	学校教育	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	特別支援教育	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	総合人間形成	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	スポーツ健康	20	0	1	9	10	0	0	2	8	10	0	0	0
	芸術文化	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
D P 2 現代社会で生じている健康やスポーツに関するさまざまな課題について論じ、適切な対応を考えることができる	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2年	19	0	1	9	9	0	0	2	8	9	0	0	0
	3年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4年	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
性別	男	10	0	1	4	5	0	0	2	3	5	0	0	0
	女	10	0	0	5	5	0	0	0	5	5	0	0	0
計	20	0	1	9	10	0	0	2	8	10	0	0	0	0

①対応していなかった ②どちらかといえば対応していなかった  
③どちらかといえば対応していた ④対応していた 無：未記入

### 3. おわりに

授業アンケート、および DP 関連アンケートの結果を考慮しながら、今後も、授業に取り組んでいきたい。